

若手アカデミー会議（第24期・第2回）議事要旨

日時：平成30年3月29日(木)10:00~12:00

会場：休暇村志賀島 金印の間

出席者：岸村、新福、高瀬、岩崎、荒木、井藤、伊藤、上田、宇南山、遠藤（良）、大矢根、隠岐、加藤、狩野、川口、小森、酒折、住井、田井、高山、中澤、中村（征）、西嶋、埴淵、林、平田、前川、森、安田

（Skype参加）福永、笠井、小堀、實藤、土屋、村上

議事概要：

（一）前回議事要旨の承認

若手アカデミー会議（第24期・第1回）議事要旨が承認された。

（二）幹事団からの報告、各分科会から報告

・幹事団からの報告

岸村代表より河邊会員と中村（さ）会員の退会が報告され、承認された。今年度で開催予定のシンポジウムとして、若手サミット（6月・ネットワーク分科会）およびシチズンサイエンス（7月・社会連携分科会）が報告され、承認された。3月12日に行われた日本学会会議若手アカデミー会員と文部科学省との意見交換について報告がなされ、次回の会合に向けて資料の更新などに関する協力依頼がなされた。

高瀬幹事より2月22日に行われた全分野結集型シンポジウム「学問の世界 The academic world」～真理探究とは何か～について報告があった。

岸村代表より3月21日に行われた日本化学会論説フォーラムについて、若手アカデミー代表としての出席について報告があった。議論の結果、会員が若手アカデミー会員としての活動を行う場合には、幹事団による判断に一任することが承認された。またそうした活動については、全体会議や学術の動向誌への寄稿によって若手アカデミーに報告することとなった。

・学術の未来分科会からの報告

学術の未来分科会の川口委員長より分科会役員の決定について報告があり、承認された（平田副委員長、中村（征）・埴淵幹事）。分科会では研究者のタイムマネジメントの問題に関する議論があったこと、また、今後も抽象度の高いトピックについて議論を行っていくことが報告された。

・ネットワーク分科会からの報告

ネットワーク分科会の酒折委員長より分科会役員の決定について報告があり、承認された（岩崎副委員長、井頭・前川幹事）。若手科学者ネットワーク ML の運営、アニュアルレポートの作成、若手科学者サミットの開催について報告があった。6月4日に開催される若手科学者サミットでは研究発表、ポスター発表、パネルディスカッション（産官学における

「良い研究」がテーマ)を行うとともに、研究発表の中から優秀な発表に対して若手アカデミー賞を授賞することが承認された。

なお、関連する議題として、若手アカデミーのロゴのデザインおよび選定について、岩崎幹事がとりまとめて進めることとなった。

- ・社会連携分科会

公開シンポジウム「若手アカデミーが考えるシチズンサイエンスに基づいた学術横断的社会連携」を開催予定であることが高瀬幹事より報告され、承認された。また、同シンポジウムへの参加や話題提供について協力が要請された。

- ・国際分科会

国際分科会の新福委員長より分科会役員の決定について報告があり、承認された(西嶋副委員長、安田・中西幹事)。分科会では教育システムが脆弱な国での教育活動、スーパーグローバル大学、大学の国際化とインフラ整備・受け入れ態勢、海外におけるデータ取得(名古屋議定書)についての議論があったことが報告された。新福委員長、岸村代表、岩崎幹事の GYA への参加について報告があった。また、GYA 新規メンバーへの応募について積極的にを行うよう依頼がなされた。

(三) その他

(1) 科学者委員会、同各分科会での取り組み

- ・科学者委員会

岸村代表から科学者委員会における議論内容について報告があり、軍事研究やゲノム編集研究に関する意見の募集および議論への協力依頼がなされた。特に軍事研究については、その定義や、現に自衛隊の協力を受けているような研究の扱いについて議論があった。

- ・男女共同参画分科会

新福会員から男女共同参画分科会における議論内容について報告があり、第五次科学技術基本計画に向けて意見の募集がなされた。また、大学や学協会への女性参加推進についてシンポジウムが行われることが報告された。

- ・学術体制分科会

平田会員から学術体制分科会は今後4月半ばから末にかけて開催予定であることが報告された。

- ・学協会連携分科会

川口会員から学協会連携分科会における議論内容について報告があり、協力学術研究団体の指定要件に関する議論が行われた。

- ・研究計画・研究資金分科会

大矢根会員から研究計画・研究資金分科会における議論内容について報告があり、マスタープランに関する議論が行われた。

- ・学術と教育分科会

西嶋会員から学術と教育分科会における議論内容について報告があり、いわゆる大学改革の総括に関する議論が行われた。

・今後の進め方に関する議論

科学者委員会・各分科会と若手アカデミーの関係について、今後も、代表して出席している会員から世話人にメールでの報告を適宜行ってもらうこと、最終的には全体会議で報告を行ってもらうことが確認された。また、若手アカデミー分科会と科学者委員会・各分科会の構造が必ずしも対応していないことから、必要に応じてワーキンググループなどを組織する方針が承認された。

(2) 情報共有の方法

岸村代表より分科会における情報共有の取り組みについて報告があり、議論が行われた (Box、Slack の利用など)。

(3) 若手アカデミーHP の充実について

岸村代表より若手アカデミーHP の充実・アップデートの必要性に関する指摘が指摘された (国際化の必要性など)。岩崎幹事から、広報委員会において日本学術会議本体のホームページも更新が予定されていること、可能な範囲で連携していくことが提案された。

(4) 日本学術会議および外部機関との連携

公共性が高い財団との連携の可能性について議論が行われ、資金を受け取る場合にはその方法について検討の必要性があることが確認された。日本学術会議内部については幹事団が中心に、外部機関については社会連携分科会が中心に検討を行うことが提案された。

・INGSA 2018 について

岸村代表より 11 月上旬に開催される INGSA 2018 へ協力することについて提案があり、承認された。特に、11 月 5 日にはグローバルヤングアカデミーとしての会合を開催するため、積極的な参加への要請が行われた。

・GYA 企画"Training of the Facilitators" for young science leaders について

岸村代表から 5 月 16-18 日にバンコクで行われる Global Young Academy 主催企画"Training of the Facilitators" for young science leaders について安田会員を派遣する予定である旨報告され、承認された。

(5) 地方でのシンポジウム開催について

高瀬幹事より地方活性化予算によって公開シンポジウム「地方における若手科学者を中心とした学術活動の活性化ーシチズンサイエンスを通じた地方課題解決への取り組みー」を開催予定である旨報告があり、了承された。また岸村代表より、地方開催シンポジウム募集に関する依頼がなされた。

(6) 今後の全体会議の開催計画

岸村代表より次回の全体会議は 9 月に行う予定である旨が報告され、早期に日程調整および候補日程の周知を行うこととなった。また、次々回の全体会議は 3 月 (場合によっては 12 月) に行う予定である旨が報告された。シンポジウムとの連動を含め、地方開催につい

でも検討することが承認された。

なお関連する議題として、ビデオ会議用のマイクとカメラを調達することの必要性が確認された。また、ビデオ会議システムについて情報交換がなされた（Zoom など）。

（7）副代表の交代

福永副代表が本年6月より2年間渡米することが決定したことに鑑み、若手アカデミーの運営の観点から副代表を新福会員へと交代することが岸村代表より提案され、承認された。